

Title	漱石とラファエル前派研究文献目録
Sub Title	
Author	飛ヶ谷, 美穂子(Higaya, Mihoko)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	1993
Jtitle	三田國文 No.19 (1993. 12) ,p.1- 7
JaLC DOI	10.14991/002.19931200-0043
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19931200-0043

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

漱石とラファエル前派 研究文献目録

飛ヶ谷美穂子

漱石研究はこのところ、自筆原稿にもとづいて新編集された全集の刊行、専門研究誌の発刊など、またあらたな時代を迎えつつあるようだ。その反面、おびただしく発表される「論文」の中には、同じテーマを扱った先行論文について、まったく無知と思われるものや、逆に自説と紛うばかりに不用意な引用・借用を行っているものも、少なくない。

江藤淳氏の『漱石とアーサー王伝説』以来、漱石とラファエル前派芸術との出会いという魅力的なテーマは、さまざまな角度から論じられてきた。「ファム・ファタール」、「オフィーリア・コンプレックス」などの横文字を、国文学者が注釈なしに用いるのも珍しいことではなくなった。しかしこのテーマの場合とくに、研究者は国文学・英文学・比較文学・美学等多くの分野にわたっており、そのすべてに目配りをするのは容易なことではない。実はこれは、漱石研究全般について言えることであり、「漱石学会」ともいうべき学際的な情報の交換と蓄積の場の確立がつよく望まれるところだが、微力な筆者としてはとりあえず（おもに自分自身の必要から）、研究文献目録を作成することにした。

「漱石とラファエル前派」にテーマをしぼってもなお、紀要に掲載される卒論の類まで含めると、これに言及した論文は膨大な数にのぼる。したがってここでは、

- (a) 「漱石とラファエル前派」が論旨の中核をなすもの
- (b) 「漱石とラファエル前派」に関連して重要な指摘のあるもの

のいずれかに属する論文に限って取り上げた。(b)の中には、アーサー王伝説や英国絵画・詩歌などを扱ったものを含み、十分な関連性が認められればPRBあるいは漱石への直接の言及の多寡にはこだわらなかった。また、ラスキン・ウオッツ＝ダントン・メレディスなど、PRBに関わりの深い文学者については、その関わりにおいて論じた場合のみ対象としている。

こうして整理してみると、重要な指摘の多くが、かなり早い時期から（しばしばいわゆる漱石研究者以外の手で）なされていることに驚かざるを得ない。たとえば、『薙露行』の鏡の描写とホルマン・ハントの絵画「シャロットの女」との類似は、本間久雄氏によって昭和41年に指摘されているし、『それから』や『草枕』を“世紀末”と結びつける分析も、高階秀爾・海野弘両氏など美術専門家によって昭和40年代から試みられている。また、シャロットの女やオフィーリアをめぐる水死のオブセッションについては、昭和49年に相次いで発表された堀切直人・越智治雄両氏の論考をはじめ、既に十指にあまるすぐれた業績がある。これらのテーマをあらためて取り上げる

には、オリジナルな視点を求める相当の覚悟が必要であろう。

「漱石とラファエル前派」については、漱石のロンドン留学と英文学研究、美術・装丁とのかかわり、ロマン派や世紀末文学の影響など、併せ考えるべき問題が多く、かつそのすべてを総合しても、漱石文学を支える和漢洋の素養のごく一部に過ぎない。また一方で、藤井淑禎氏の『不如帰の時代－水底の漱石と青年たち』（名大出版会 '90.3・284頁）のように、漱石を同時代の空気の中に復元する試みも忘れてはなるまい。深く知るためには広く読まねばならないが、そのすべてを収めることはこの目録の任ではない。象を撫でる群盲の愚に陥らぬために、すなわち能う限り有機的に漱石の全体像を捉えるために、小稿のようなテーマ別研究書誌が数多く編まれることが必要ではないかと、考えるものである。

凡例

*全体を1. 単行本、2. 論叢および雑誌特集号、3. 雑誌論文等 の3部に分類し、項目ごとに発表順に配列した。

1、2の場合、とくに重要な章（論文）のタイトル・掲載頁・初出をあとにアスタリスク（）で示した。複数の版が存在する場合、頁数は下線を施した版に拠る。

*1の単行本、2、3の論文のうち、このテーマと直接深く関わる内容を持ち、かつ重要度も高いものに「◎」印、必ずしも論旨の中心ではないが、このテーマに関わる重要な指摘を含むものに「○」印を施した。なお云うまでもなく、これは論文そのものの評価を意味するものではない。

*テーマとの関連の判然しないタイトルの論文には、簡単な説明を付した。

*この目録は、1993年9月末日までに管見に入った論文を対象としている。遺漏・誤記を虞れ、広くご教示を乞う次第である。

1. 単行本

(1) 「漱石とラファエル前派」に関連の深いもの

○高階秀爾『日本近代美術史論』（講談社 '72.1；増補改訂版講談社学術文庫 '90.9・456頁）

*「青木繁」117-151頁（『季刊芸術第3号』'66.秋：『それから』の代助を世紀末耽美主義者と分析）

◎江藤 淳『決定版 夏目漱石』（新潮社 '74.11・512頁）

*「漱石とラファエル前派」346-49頁（『文学界』'67.11）／「漱石と英国世紀末芸術」350-61頁（『国文学』'68.2）／「鷗外と漱石－その留学と恋と」455-500頁（『新潮』'73.10-74.1）

◎江藤 淳『漱石とアーサー王伝説－「薙露行」の比較文学的研究』（東大出版会 '75.9・342頁；講談社学術文庫 '91.6・372頁）

高階秀爾『日本近代の美意識』（青土社 '78.3；新訂増補版 '86.9・551+ ix 頁）

*「漱石と美術批評」388-96頁（『国文学』'71.9増刊：漱石をロマン派から世紀末

につながる系譜上に位置づける)

- 海野 弘『日本のアール・ヌーヴォー』（青土社 '78.12；新装版'88.5・300頁）
 - * 「モダニズム再訪」8-188頁（『芸術生活』'76.1-12；「橋口五葉」の項で『漾虚集』『草枕』に言及、「明治のヴィナス」の項では『草枕』を「漱石のタンホイザー伝説」と分析）
- 芳賀 徹『みだれ髪系の系譜—詩と絵の比較文学』（美術評論社 '81.7・371頁；講談社学術文庫 '88.10・398頁）
 - * 「みだれ髪系の系譜」10-42頁（『短歌研究』'78.8, 「国語教室」'81.6）
- 松村昌家『明治文学とヴィクトリア時代』（山口書店 '81.11・211+x頁）
 - * 「『幻影の盾』における英文学的諸要素」87-104頁（『神戸女学院大学論集』'75.9）／「『薙露行』の英文学的背景」107-48頁（同 '81.3）佐渡谷重信『漱石と世紀末芸術』（美術公論社 '82.2・355頁）
磯田光一『鹿鳴館の系譜 近代日本文芸史誌』（文芸春秋社 '83.10；講談社文芸文庫 '91.1・380頁）
 - * 「『明星』派の水脈」131-62頁
- 芳賀 徹『絵画の領分—近代日本比較文化史研究』（朝日新聞社 '84.4・643+xiii頁；朝日選書・647+xiii頁）
 - * 「夏目漱石—絵画の領分」355-518頁（『夏目漱石遺墨集』求竜堂 '79-80）／「浅井忠と夏目漱石」308-51頁（『近代美術の開拓者たち・3』有斐閣 '81）岡田隆彦『ラファエル前派 美しき宿命の女たち』（美術公論社 '84.7・260頁）
 - * 「明治末におけるロセッティの影響」191-250頁大原三八雄『ラファエル前派の美学』（思潮社 '86.3・357頁）
 - * 「『漾虚集』」320-56頁匠 秀夫『日本の近代美術と文学—挿絵史とその周辺』（沖積舎 '87.11・241頁）
 - * 「明治三〇年代における文学と美術の関わりについて—「文学界」と「明星」を中心として—」59-86頁（『文学』'85.10）／「漱石文学と挿絵」189-204頁（『講座夏目漱石 第一巻』有斐閣 '81.7）
- 大岡昇平『小説家夏目漱石』（筑摩書房 '88.5・443頁；ちくま学芸文庫 '92.6・522頁）
 - * 「ユリの美学」108-31頁（『展望』'75.6）／「『薙露行』の構造」169-99頁（同 '76.3）／「ウイリアム・「盾」・水」9-32頁（同 '77.8）／「水・椿・オフィーリア」202-31頁（『群像』'80.1）川口久雄『漱石世界と草枕絵』（岩波書店 '87.5・126+ii頁；初稿「『草枕絵巻』と漱石的空間—文学と絵画との交響」、『文学』'85.2-4）
- 江藤 淳『漱石論集』（新潮社 '92.4・333頁）
 - * 「漱石とアーサー王伝説 序説」214-29頁（『国文学』'74.11）／「『それから』と『心』i. 「鈴蘭」と「白百合」—『それから』の世界—」8-69頁（『講座夏目漱石 第三巻』有斐閣 '81.11）

(2) 漱石の比較文学研究の基本文献（総括的なもの）

- 板垣直子『漱石文学の背景』（鱒書房 '56.7・224頁；復刻『近代作家研究叢書41』日本図書センター '84.7）
- 海老池俊治『明治文学と英文学』（明治書院 '68.3・231+ vi 頁）
- 江藤 淳『漱石とその時代 第二部』（新潮社 '70.8・370頁）
- 矢本貞幹『夏目漱石 その英文学的側面』（研究社 '71.9・302頁）
- 平川祐弘『夏目漱石 非西洋の苦悶』（新潮社 '76.8・339頁；講談社学術文庫）
- 岡 三郎『夏目漱石研究 第一巻 意識と材源』（国文社 '81.11・548頁）
- 角野喜六『漱石のロンドン』（荒竹出版 '82.5・258頁）
- 出口保夫『ロンドンの漱石』（河出書房新社 '82.8・280+ vi 頁）
- 平川祐弘『漱石の師マードック先生』（講談社学術文庫 '84.9・278頁）
- 出口保夫／アンドリュウ・ワット編『漱石のロンドン風景』（研究社 '85.8・195頁）
- 塚本利明『漱石と英国-留学体験と創作との間』（溪流社 '87.9・268頁）
- 稲垣瑞穂『夏目漱石と倫敦留学』（吾妻書房 '90.11・308頁；『漱石とイギリスの旅』'87.5・250頁の改訂新版）

2. 論叢および雑誌特集号（総括的なものも含む）

『英語青年』第100巻8号「夏目漱石特集」（研究社 '54.8）

* 田部重治「漱石先生の授業ぶり」426頁（PRBに冷淡だったと回想）

日本比較文学会編『比較文学研究・1』「漱石の比較文学的研究」（矢島書房 '54.10・238頁）

『英語青年』第112巻7号「特集：夏目漱石と英文学」（'66.7）

○ 本間久雄「テニソン」444-45頁（ホルマン・ハント「シャロットの女」に言及）

『国文学』第16巻12号「夏目漱石の手帖」（学燈社 '71.9）

○ 石井和夫「漱石とダンテ」122-27頁（ロセッティ、ミレー、ホルマン・ハントに言及）

『国文学』第19巻13号「漱石文学の変貌」（'74.11）

* 越智治雄「漱石と夢の極点」142-50頁（漱石の諸作をオフィーリアを中心に分析；『越智治雄文学論集2 漱石と文明』砂子屋書房 '85.8に収録）

『英語青年』第122巻10号「特集：夏目漱石」（'77.1）

日本比較文学会編『漱石における東と西』（主婦の友社 '77.12・223頁；殆ど前項「英語青年」第112巻7号の再録）

塚本利明編『比較文学研究 夏目漱石』（朝日新聞社 '78.10・597頁）

○ 石井和夫「『濠虚集』の背景-漱石と『神曲』のふれあいを中心に-」309-32頁（初稿「立教大学日本文学」'71.6；ロセッティに言及）

○ 卷末「研究書誌」552-97頁（大変行き届いており便利）

『講座夏目漱石』第二巻 漱石の作品（上）（有斐閣 '81.8・328頁）

○ 松村昌家「『濠虚集』におけるイギリス体験」91-117頁

- 『国文学』第26巻13号「『三四郎』と「こゝろ」の世界」（'81.10）
- * 斎藤恵子「十九世紀ヨーロッパ文学と『三四郎』」43-49頁
- 『講座夏目漱石』第五巻 漱石の知的空間（有斐閣 '82.4・408頁）
- * 亀井俊介「漱石の英詩を読む」235-67頁
 - 芳賀 徹「漱石の『十二夜』－「暖かい夢」のなかのロンドン－」350-93頁（画家アルマ・タデマからPRBに言及）
- 『別冊国文学 No.14 夏目漱石必携 II』（'82.5）
- 『国文学』第28巻14号「夏目漱石－比較文学の視点から」（'83.11）
- 高宮利行「中世英文学と漱石」40-45頁
 - 熊坂敦子「三四郎－西洋絵画との関連で」90-97頁
- 『理想』第622号「特集＝夏目漱石」（理想社 '85.3）
- ◎前田 愛「世紀末と桃源郷－『草枕』をめぐって」204-14頁（初稿『国文学』第28巻14号 '83.11：『前田愛著作集 第6巻』筑摩書房 '87に収録）
 - * ほかに中野記偉「漱石とロマン主義」246-54頁等、PRBに直接言及しないが有益な論文が多い。
- 飯島武久・J.M.Vardaman, Jr. 共編 *The World of Natsume Sōseki*（金星堂 '87.2・326頁）
- * Lynne Kutsukake 'Cherchez la Femme : the Figure of Mineko in Sōseki's *Sanshirō*'（美禰子はスウィンバーンの言う "a darker Venus"）であり、世紀末の水のニンフであるとする）
- 『国文学』第32巻6号「夏目漱石を読むための研究事典」（'87.5）
- 『太陽』No.311「特集：アール・ヌーヴォーの旅」（平凡社 '87.9）
- ◎佐伯順子「理想郷の女 夏目漱石とアール・ヌーヴォー」78-81頁
 - 尹 相仁「乱れ髪的美学－描かれた世紀末美人像」82-88頁（漱石には言及しないがオフィーリア・コンプレックスに関して有益）
- 東大比較文学会編「比較文学研究」第57号「特輯 夏目漱石を読む」（'90.6）
- ◎池田美紀子「漱石と世紀末の女性たち－ヒロインの肖像－」97-118頁（ロセッティを中心に、スウィンバーンにも言及）
- 『別冊国文学 No.39 夏目漱石事典』（'90.7）
- ◎尹 相仁「世紀末美学」241-43頁、「ラファエル前派」246-48頁
- 『漱石作品論集成 第五巻 三四郎』（桜楓社 '91.1）
- * 玉井敬之「三四郎の感受性－『三四郎』論」161-75頁（『講座夏目漱石 第三巻』有斐閣 '81.11：藤島武二・ミレー等に言及）
 - * 中山和子「『三四郎』－片付けられた結末－」176-84頁（『別冊国文学 No.14 夏目漱石必携 II』'82.5：美禰子をファム・ファタールとして分析）
 - ◎熊坂敦子「『三四郎』と英国絵画」185-98頁（『日本女子大学紀要文学部』第34号 '85.3：ラスキン、グルーズ等に注目）
 - * 奥野政元「『三四郎』ノート－青木繁「わだつみのいろこの宮」との関連をめぐって

てー」223-32頁（『活水国文』第15号 '86.10）

『日本文学研究資料新集14 夏目漱石 反転するテキスト』（有精堂 '90.4）

○三上公子「『第一夜』考—漱石「夢十夜」論への序—」28-37頁（日本女子大学「国文目白」15号 '76.2：テニスン、キーツと比較、水鏡・百合・真珠貝などのイメージに注目）

*木股知史「『それから』の百合」55-62頁（『枯野』第6号 '88.7）

『ユリイカ』第23巻10号「特集 アーサー王伝説」（青土社 '91.9）

○高宮利行「水・死・女—図像化されたテニソンの『シャロットの女』」135-37頁

3. 雑誌論文等（1. 2 以外のもの）

○阪田勝三「『薙露行』とその素材」（『文学』第10巻12号 '42.12・547-60頁；平岡敏夫編『夏目漱石資料集成 第10巻』日本図書センター '91.5に収録：PRBに言及しないが材源研究の嚆矢として重要）

島田謹二「日本近代文学の一つの見方」（増田四郎編『西洋と日本—比較文明的考察—』中公新書 '70.10・121-64頁：『エイルウィン』と『趣味の遺伝』の類似を指摘）

松村達雄「漱石の『薙露行』」（『英語青年』第118巻11号 '73.2・622-24頁：PRBには言及なし）

◎斎藤恵子「『趣味の遺伝』の世界」（東大比較文学会「比較文学研究」24号 '73.9；『日本文学研究資料叢書 夏目漱石II』有精堂 '82.9に収録：『エイルウィン』を中心に緻密に考証）

◎堀切直人「オフィーリアの幻影—ラファエル前派を中心として—」（『芸術生活』'74.12；加筆して「オフィーリアの幻影—ラファエル前派・夏目漱石・大岡昇平、『日本文学研究資料叢書 日本文学研究の方法 近代編』有精堂・248-56頁に収録）

○高宮利行「『薙露行』の系譜」（『英語青年』第120巻11号 '75.2・514-18頁）
大沢吉博「夏目漱石のアンビヴァレンス—裸体画論を中心にして—」（東大比較文学会「比較文学研究」29号 '76.4・62-92頁）

◎塚本利明「『幻影の盾』の背景—比較文学的考察—」（『専修人文論集』第18号 '76.12・35-58頁：アーノルド、スウィンバーンに言及）

○磯田光一「日本オペラ史の一齣—『薙露行』の白鳥をめぐって」（『国文学 解釈と鑑賞』第43巻11号 '78.11・129-37頁：『ローエングリン』との接点を考証）

塚本利明「『幻影の盾』の背景（二）—主としてテニスンとの関係をめぐって—」（『専修人文論集』第22号 '79.1・23-52頁）

○池谷直美「漱石における「明星」的なもの—初期作品を中心に—」（梅光女学院大学「日本文学研究」第16号 '80.11・129-39頁）

○太田昭子・福田真人「漱石と西洋美術—倫敦・明治三十五年前後」（東大比較文学会「比較文学研究」42号 '82.11・15-68頁：PRBを扱ったものではないが有益）

高宮利行「漱石と三人の中世文学者」（『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』第14号

'82.12・163-77頁)

桜庭信之「漱石の小説と絵画」(『イギリスの小説と絵画』大修館書店 '83.3・114-36頁:ディケンズ、ターナーなどとの関連を考察)

○高宮利行「シャロットの女の図像学・序説」(明治学院大学言語文化研究所「言語文化」第3号 '85.3・71-81頁)

嶺 京子「夏目漱石に与えた「シャロットの女」の影響」(慶応義塾大学高宮研究室 *The Round Table* 創刊号 '85.12・43-53頁)

熊坂敦子「『それから』-その世紀末」(「日本女子大学紀要文学部」第36号 '87.3・31-43頁)

◎尹 相仁「漱石の世紀末的感受性-水底幻想を中心に」(「新潮」第84巻11号 '87.11・184-200頁;『日本文学研究資料新集15 夏目漱石 作家とその時代』有精堂 '88.11に収録)

○塚本利明「漱石とフランチェスカ伝説(上・下)」(「専修大学人文科学研究月報」第122-123号 '88.6-7・それぞれ1-15頁, および1-14頁)

鈴木保昭「漱石のオフエリア夢想-『草枕』の中のシェイクスピア」(「立正大学文学部論叢」第89号 '89.3・1-38頁)

佐渡谷重信「日本近代文学と絵画との相互交渉-特に鷗外と漱石への西洋美術の影響-」(「日本の文学 第七集」有精堂 '90.6・87-121頁)

◎飛ヶ谷美穂子「漱石とスウィンバーン-『薙露行』の「夢」をめぐる-」(慶応義塾大学「藝文研究」第60号 '92.3・359-79頁)

○Mihoko Higaya 'Meredith's Influence in Sōseki's *Kusamakura*' (*POETICA* No. 35, 秀文インターナショナル '92.3・77-85頁)

松村昌家「漱石とラファエル前派-『草枕』におけるオフエリア像を中心に-」(「甲南大学紀要 文学編81 英語英米文学特集」 '92.3・84-99頁;『ヴィクトリア朝の文学と絵画』世界思潮社 '93.4に収録)

小倉侑三「『薙露行』-その材源をめぐる- (上)」(成城短大「国文学ノート」29号 '92.3・71-95頁)

小倉侑三「『薙露行』-その材源をめぐる- (下)」(「成城国文学」8号 '92.3・10-19頁)

○五十嵐礼子「『三四郎』-ホイットラーとの関連を中心に-」(「国文目白」32号 '93.2・103-11頁)

◎飛ヶ谷美穂子「『風流な土左衛門』考-漱石・スウィンバーン・サッフォー-」(慶応義塾大学高宮研究室 *The Round Table* 第8号 '93.3・56-73頁)

◎飛ヶ谷美穂子「『草枕』の底流-メレディスの詩句をめぐる-」(「比較文学」第35巻 '93.3・75-88頁)

付記 資料の収集にあたって御助力いただいた札幌大学図書館ならびに慶応義塾大学斯道文庫川上新一郎氏に、心から御礼申し上げます。